

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 4
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/01/19		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587026902	科目番号 / Subject code	05870269
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	安全で安心できる社会 (医療現場の安全と安心)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	林田 秀明		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	林田 秀明		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	林田 秀明, 安田 二郎, 濱野 真二郎, 松本 武浩		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育C棟16		
対象学生 (クラス等) / Object Student	2年次生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	hide@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	総合歯科診療部		
担当教員TEL / Tel	095-819-7757		
担当教員オフィスアワー / Office hours	月曜日16:30 ~ 18:00		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	国内・外での病原性感染症発祥の歴史や国際伝播、情報共有について理解を深め、認識するとともに、国際人として国際社会で活躍するために、自ら医療の安全、安心の意識を育てる。		
授業到達目標 / Goal	国内・外で注目されている感染症および生体防御の基礎について理解する。 医療現場における安全と安心について理解する。 歯科医療における安全と安心について理解する。		
授業方法 (学習指導法) / Method	基本的に講義形式とする。 内容により参加型の討論形式などを行う。		
授業内容 / Class outline / Con			
キーワード / Key word	医療現場・感染症・国際伝播・情報共有		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	プリントの配布とスライドによる講義なので教科書・教材・参考書等特になし		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	小テストまたはレポートによる評価で計100点満点中60点以上の者を合格とする		
受講要件 (履修条件) / Requirements	特になし		
学生へのメッセージ / Message for students	各種メディアを利用して関連する事柄を調べることが、理解を深めるために有用である。		
授業計画詳細			
回 (日時) / Time (date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	新興感染症出現の背景と致死性の高いウイルス性出血熱に関する基礎知識 (安田)		
第2回	テレビや映画の中の感染症: 正しく伝えられているか? (安田)		
第3回	病気を起こす原虫とは? (安田)		
第4回	世界的に重大な感染症マラリアに関する基礎知識 (安田)		
第5回	ネグレクテッド・トロピカル・ディジーズ (顧みられない熱帯病): 「死なないからと放っておかれてはたまらない」1 (濱野)		
第6回	ネグレクテッド・トロピカル・ディジーズ (顧みられない熱帯病): 「死なないからと放っておかれてはたまらない」2 (濱野)		
第7回	細菌の感染の仕組み (濱野)		
第8回	地球規模のピロリ菌感染 (濱野)		
第9回	「防御は最大の攻撃?—ヒトの免疫の話」どうやってヒトはバイキンを追い払ったり負けたりするのか? (濱野)		
第10回	「防御は最大の攻撃?—ヒトの免疫の話」どうやってヒトはバイキンを追い払ったり負けたりするのか? (安田)		
第11回	医療機関における安全管理 (松本)		
第12回	医療連携における安全・安心 (松本)		
第13回	診療録管理を通じた安全・安心の医療の提供 (松本)		
第14回	歯科における標準予防策 (林田)		

第15回	歯科治療における偶発症とその防止策（林田）
第16回	

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 3
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587027301	科目番号 / Subject code	05870273
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	安全で安心できる社会 (社会科学からみた安心・安全)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	徐 陽		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	徐 陽		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	徐 陽		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟24		
対象学生(クラス等) / Object Student	全学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	jxuyang の後に @nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	経済学部 本館509		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日 14:30-16:00 及び授業後。それ以外は事前に連絡すること。		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	企業は社会を構成する一員であり、多くの人はその企業に身を置くことになる。その企業の安心・安全とは何か、株主・債権者・従業員等といった利害関係者にとっての安全・安心とは何か、現代企業のリスクとはどのようなものがあるのか。企業会計の側面から取り上げ、会計の仕組みと、決算書の見方を学習する。粉飾決算の原因や手法などといった問題、特に上場ベンチャー企業の粉飾・不正会計の事例を分析し、さらに上場企業のコンプライアンス対応策から学べる事例を通して、現代企業における安心・安全について考える。		
授業到達目標/Goal	企業の粉飾・不正会計の事例を通して、正しい企業行動を理解できることを目指す。		
授業方法(学習指導法)/Method	プレゼンテーション、レポート作成、質疑応答		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	現代企業のリスク、上場企業、粉飾、不正会計、上場廃止		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	授業に臨む態度、グループワーク・討論での積極性、発表内容などを総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)/Requirements	特になし。		
学生へのメッセージ/Message for students	簿記・会計に興味のある方が望ましい。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	オリエンテーション 決算書の基礎知識		
第2回	上場企業の行動指針、不祥事企業、上場廃止 有価証券報告書とは		
第3回	粉飾決算で上場廃止の事例 ミサワホーム九州株式会社 株式会社ライブドアホールディングス		
第4回	有価証券報告書虚偽記載の事例 大出産業株式会社 株式会社TTG		
第5回	監査人意見不表明により上場廃止の事例 株式会社フレームワークス 株式会社本間ゴルフ		
第6回	金融商品取引法違反により上場廃止の事例 株式会社オーベン コンプライアンス欠如で上場廃止の事例 ジプロ株式会社		
第7回	適時開示規則違反を繰り返し、上場廃止の事例 株式会社サンライズ・テクノロジー 株式会社メディア・リンクス		
第8回	継続企業の疑義の注記・倒産で上場廃止の事例 株式会社キャッツ 株式会社佐藤秀		

第9回	倒産で上場廃止の事例 株式会社アイ・エックス・アイ (IXI) 株式会社ノウア
第10回	上場企業のコンプライアンス対応策から学ぶ 不正取引で外部調査委員会設置の事例 ブックオフコーポレーション株式会社 株式会社アクセス
第11回	適時開示改善報告書の提出 株式会社株式会社インデックス・ホールディングス グッドウィル・グループ株式会社
第12回	上場規則に関する猶予期間入りの事例 株式会社オープンループ 株式会社アドバックス
第13回	金融庁から業務改善命令を出された事例 名古屋証券取引所
第14回	MBOで問題となった事例 レックス・ホールディングス株式会社 フードエックス・グローブ株式会社
第15回	総合演習
第16回	まとめ

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 3
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587027701	科目番号 / Subject code	05870277
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	安全で安心できる社会 (工学から見た安全安心(エネルギーと資源))		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	桃木 悟		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	桃木 悟		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	桃木 悟, 山口 朝彦, 近藤 智恵子		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育C棟16		
対象学生(クラス等) / Object Student	医学部、歯学部、工学部、環境科学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	momoki@nagasaki-u.ac.jp, "ckondou@", "tomo@"		
担当教員研究室/Laboratory	工学部1号館3階 基礎エネルギー工学G研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2528(桃木)/2531(山口)/2527(近藤)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜：5校時(事前にe-mailで、予約するのが望ましい。)		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	日本のエネルギーのあり方を考えるために、日本のエネルギー事情、資源(食料、化石燃料、レアメタル、鉄など)の今後、国民生活とエネルギー需給、IPCCの報告書をめぐる環境問題の捉えかたを、安全の問題を踏まえてテーマとする。		
授業到達目標/Goal	日本と世界のエネルギーと資源の基本問題が説明できること。自分なりの問題解決策の第1歩を提案できること。		
授業方法(学習指導法)/Method	教員提示の資料や受講者が集めた資料などに基づき、講義を展開する。		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	環境問題、化石燃料、原子力、エネルギーの質、地球温暖化、代替冷媒、食料増産		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	担当教員が、適時資料を配布するか、または、受講者各自にdownloadしてもらったURLを知らせる。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	毎回の講義出席を原則とし、定期試験(70%)、3回のレポート(30%)で総合評価する。		
学生へのメッセージ/Message for students	日本は、天然資源のほとんどを外国に依存しているにも関わらず、エネルギーの問題は、1973年および1979年のオイルショックの後にはあまり関心を集めてこなかった。しかし、地球温暖化の問題や東日本大震災を経て、国民の全体の課題として広く関心を集めている。受講者は、常に新聞やテレビなどのメディアが発信するエネルギー関連の情報に常に注意を払い、疑問があったらすぐに自分で調べる態度を続けて欲しい。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	概説, 準備, アンケート		
第2回	エネルギーとは: そもそもエネルギーとは何なのか、どのくらい重要なのかについて、それを " 定量的 " に議論する最低限の素養を身につけるための講義を行う。		
第3回	エネルギーに関する歴史: 需要と供給について定量的に考え方を交えながら、エネルギー利用技術と社会の状況に関する歴史について講義する。		
第4回	国内のエネルギー事情(1): ここ数年の日本国内のエネルギー事情に関し講義する。		
第5回	国内のエネルギー事情(2): 日本機械学会動力エネルギー技術部門の動向を踏まえた最新の状況について講義する。		
第6回	省エネルギーとヒートポンプの役割: ヒートポンプの基礎的知識を学び、産業用および民生用ヒートポンプの活用事例と省エネルギー対策への効果について考える。また ヒートアイランド現象への影響についても言及する。		
第7回	冷凍・ヒートポンプサイクル: 冷凍・ヒートポンプサイクルの作動原理を理解し、具体的に効率を計算出来るようになることを目的とする。また高効率化技術を紹介する。		
第8回	冷媒の安全性と環境への影響 I: 冷凍・ヒートポンプに使用される冷媒の種類とその毒性・安全性・オゾン層破壊係数・温暖化係数を比較し、オゾン層破壊と地球温暖化のメカニズムについて学ぶ		
第9回	冷媒の安全性と環境への影響 II: 冷媒に関わる規制や技術開発の動向を紹介し、NOAAが提唱するシナリオと地球環境変動の予測結果について議論する。		

第10回	未利用エネルギーの活用： 未利用エネルギーの一つである各種廃熱の熱源，温度レベルならびに排出量に関するデータを収集し，地中熱利用HP，河川や下水排熱，工場排熱を利用したHPや小型発電などの利用技術について議論する．
第11回	IPCC第5次評価報告の概要 Working Group I：気候変動の概況と予測、およびその科学的根拠を講義する。
第12回	IPCC第5次評価報告の概要 Working Group II：気候変動の影響を講義する。
第13回	IPCC第5次評価報告の概要 Working Group III：気候変動の緩和策を議論する。
第14回	IPCCの報告書をめぐる環境問題の捉えかた：IPCC評価報告書の社会への影響とさまざまな意見を議論する。
第15回	持続的社會に向けての取り組み：省エネルギー対策、再生可能エネルギーの開発、原子力の現状などを議論する。
第16回	定期試験

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	月/Mon 3
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587028101	科目番号 / Subject code	05870281
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	安全で安心できる社会 (公害環境問題と社会)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	戸田 清		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	戸田 清		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	戸田 清		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育C棟16		
対象学生 (クラス等) / Object Student	医学、歯学、工学、環境、1 - 4年		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	toda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	環境科学部 4階環404戸田教員室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2726		
担当教員オフィスアワー/Office hours	金曜 16 - 17時		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	安全で安心できる環境を享受するため、公害・環境問題の歴史と現状、またそれらを考察する理論を学ぶ。全学モジュール科目「安全で安心できる社会」の選択科目。		
授業到達目標/Goal	代表的な公害・環境問題の概要を説明し、企業、行政、専門家、被害者と一般市民の役割、対立点、キーワードなどを説明できるようになることを目指す。		
授業方法 (学習指導法) /Method	基本的に映像をまじえた講義方式で行うが、口頭や毎回の質問感想用紙による質疑応答を取り入れて理解度を探りながら進める。必要に応じてプリントを配布し、OHPなどを利用して理解を助ける。		
授業内容/Class outline/Con	具体的な事例を通じて、公害・環境問題への多面的・学際的なアプローチを学ぶ。15回はまとめ、16回は定期試験。とりあげる事例は、予定を変更したり、順番を入れ替えたりすることがある。		
キーワード/Key word	水俣病、カネミ油症、原発、リスク社会、受益圏と受苦圏、住民運動と市民運動		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は戸田清『核発電を問う』法律文化社2012年。参考文献は適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	定期試験70%、毎回のミニレポート30%		
受講要件 (履修条件) /Requirements	受講要件は特になし。		
備考 (URL) /Remarks(URL)	<a href="http://todakiyosi.web.fc2.com/">http://todakiyosi.web.fc2.com/</a>		
学生へのメッセージ/Message for students	教科書を通読すること。環境科学部の環境社会学と一部重複するが、両方受講しても得るところは多い。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	イントロダクション		
第2回	水俣病 なぜ半世紀も混乱が続くのか		
第3回	水俣病その2		
第4回	カネミ油症 40年かかってわずかな前進 <ゲスト: 下田順子>		
第5回	カネミ油症その2		
第6回	リニア中央新幹線のメリットとデメリット		
第7回	福島原発事故と甲状腺がん		
第8回	放射線被ばく労働		
第9回	10万年の安全確保を要する高レベル放射性廃棄物		
第10回	農薬問題 特にネオニコチノイド		
第11回	遺伝子組み換え作物		
第12回	石木ダム計画をめぐる紛争		
第13回	ベトナム枯葉作戦と劣化ウラン弾 戦争と環境破壊		
第14回	自然における人類の位置 ヒト、チンパンジー、ボノボ		
第15回	まとめ		





学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 3
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150587028902	科目番号 / Subject code	05870289
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	安全で安心できる社会 (破壊事故とヒューマンファクタ)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	勝田 順一		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	勝田 順一		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	勝田 順一		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟14		
対象学生 (クラス等) / Object Student	No.3 安全で安心できる社会		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	katsuta@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	工学部1号館5階 教官・ゼミ室504		
担当教員TEL / Tel	095-819-2599		
担当教員オフィスアワー / Office hours	基本的には講義終了後講義室, またはmailで受け付ける。研究室に在室中は随時受け付ける。		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	<p>“ものづくり”は、建造するものが壊れないように、要求される性能を十分に発揮できるようにする必要がある。ところが、実際には、様々な“もの”が様々な原因で壊れ、時には悲惨な事故となることがある。</p> <p>講義では、様々な学部にも所属し、将来いろいろな分野に進む学生を対象に、“ものづくり”の成果や破壊事故の実情を講義とビデオにより紹介する。また、“もの”が壊れる条件についてわかりやすく説明する。</p> <p>さらに、近年、事故発生に人のミスが関わっているとの多くの指摘がある。ヒューマン・エラーについて体験させ、人のミスを防ぐための安全確保策の考え方について紹介することを目的とする。</p>		
授業到達目標 / Goal	この講義によって、実際の「ものづくり」に携わらなくても、新聞等での事故報道に対する理解が深まること、学生の身近な生活の中で利用可能なヒューマン・エラー対策の基礎的考察ができることを到達目標とする。		
授業方法 (学習指導法) / Method	講義は、パワーポイントによる座学での解説とビデオでの事例の視聴によって行う。自主学习としてレポートを課す。また、後半のヒューマン・ファクタの項目では、学生自身による体験を行う。講義中の受講態度や遅刻については、特に成績評価に反映させるので、真摯な態度での受講を求める。		
授業内容 / Class outline / Con	<p>“ものづくり”の手順, “もの”が壊れる原因について講義した上で、破壊事故の事例をビデオで視聴する。</p> <p>事例によっては、講義室で簡単な実験で事故原因を体験する。</p> <p>事故には、個人の知識不足や不注意だけでなく、ヒューマン・ファクタや組織の原因が大きく影響することを理解するために、簡単なヒューマン・エラーを起こす体験を行う。</p> <p>これらのことによって、誰でもが、一生懸命やっても、優秀であっても、陥る可能性があるミスについて、実態と対策を考える。</p> <p>第1回 講義の概論, 講義の目的, “ものづくり”の成果  第2回 “ものづくり”の成果と破壊事故分析  第3回 力に対する材料の限界, 破壊とは  第4回 最近の事故例における発生の背景  第5回 事故例と事故分析  第6回 工学的安全システムの有効・無効  第7回 “ものづくり”における『安全』とは  第8回 “ものづくり”における安心と市民の『安心』とは  第9回 技術者の責任と市民の責任  第10回 人が犯すミスとその背景, および体験  第11回 想定される失敗と想定されない失敗, および体験  第12回 思い込みと錯覚による安全喪失  第13回 外部情報と脳の受容情報  第14回 人の理解と脳の理解, その行動  第15回 安心文化の醸成のためには</p>		

キーワード/Key word	破壊事故，医療事故，組織事故，安心・安全，ヒューマン・ファクタ，脳科学，認知科学
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は用いず，教員作成の講義資料（プロジェクト），ビデオ，配布資料，実験資料によって行う。 必要に応じて，参考文献を講義中に紹介する。
成績評価の方法・基準等/Evaluation	提示されたテーマに対する自身で考えたことを主とするレポートのみによって100%評価する。定期試験は実施しない。未提出の課題やレポートがある場合は，不合格とする。 課題レポートでは，自分自身の多面的な考察，意見，感想のみを評価し，講義内容を記した部分は評価対象外とする。 レポートでの得点で合格に達した者については，受講態度や自主学習を考慮して，成績を報告する。
受講要件（履修条件）/Requirements	欠席は認めず，全回出席を原則とする。やむを得ない理由がある場合のみ，個別指導を行う。なお，高等学校までの物理学の受講の有無は問わない。 受講学生数は，最大50名とする。
学生へのメッセージ/Message for students	準備は必要ないが，講義後のレポート作成に重点をおくことを求める。